

2023年9月1日（金）

2 学期始業式式辞

夏休みは、どのような生活を送りましたか？

勉強や部活動に頑張れた人も、そうでなかった人もいるでしょうが、1学期の終業式で「2学期の始業式では、元気な皆さんと再会したい」とお願いしましたが、今日こうして登校し、私の話を聞いてくれているということは、約束を守ってくれたということですね。非常にうれしく思います。

私は毎年夏季休業期間に放送される24時間テレビを楽しみにしています。今年は「なにわ男子」がメインパーソナリティーを務めたので観た人も多かったのではないかと思います。その24時間テレビの中で、スペシャルドラマというものが毎年放送されており、今年は「虹色のチョーク 知的障がい者と歩んだ町工場の奇跡」が放送されました。

ずいぶん前のことですが、私が特別支援学校の教頭だった頃にこの町工場のことを知り、本を買ったり、アポ無しで職場を訪問・見学させてもらったこともありました。その理由は、この町工場というのは、日本理化学工業という主にチョークを作っている会社で、日本国内の約8割のシェアを誇っていること、それ以上に、この工場で働く人の7割以上が知的障がい者という点です。

どこの会社や工場でも雇ってくれない、働けないと苦しんできた方々に、どんな方法でやる気を起こさせ、技術を身につけさせ、立派な職人さんに育てていったのか？なぜ、知的障がいを抱える人たちばかりを採用し続けたのか。どうすれば、仕事を理解させ、安心、安全な商品を製造することができるのか、当時の私には、信じられないことばかりでした。

私は、日本理化学工業の元社長、現会長である大山泰弘氏さんから素敵な言葉を教わり、少し理解することができたような気がしました。

**「人間の究極の幸せ」は4つある。
人に愛されること、
人に褒められること
人の役に立つこと、
そして、人から必要とされることだ。**

日本理化学工業は、従業員一人一人に寄り添って、障がいに応じて、様々な工夫をすることによって、働く機会を与え、働くことによって得ることができる、究極の幸せを与えてきたのだとわかりました。障がいは、時には仕事ができにくい原因にもなります。しかし、工夫と努力でその道を究めることができるのだとわかりました。働けないのではなく、どうすれば働けるのかという、発想の転換が大切だと気付かされました。また、どんな困難も、愛されたい、褒められたい、必要とされたい、役に立ちたいという強い気持ち

はあらゆる障壁を超えることができるのだと思いました。

私自身、幼いときも、若いときも、そして歳を重ねた今でも、この「4つの幸せ」を感じたいと思いながら生きてきたと思います。特に、「役に立つこと」に関しては、他の三つが受け身であるのに対して、主体的で、その人の努力なくしては役に立つことはできないと思いますし、役に立ちたいと一生懸命努力した結果、褒められ、必要とされた方が、より幸せを感じることができるはずだと思います。また、役に立つからこそ褒められ、愛され、必要とされるのだと思いますし、褒められ愛され、必要とされることで、さらに人の役に立ちたいと努力できるのだと思います。

そもそも、私が教師を志したのは、必要とされたい、役に立ちたいと強く思ってきたからで、生徒たちや先生方、地域からも愛されたいと思う気持ちは、歳を重ねても衰えることはなく、褒められ、愛され、必要とされることは、さらに役に立つための努力の大きな原動力となっていると感じます。生徒の皆さんにも、私のように、この「4つの幸せ」を毎日、身体一杯に感じて生きていってほしいと思っています。

最後に、そのために、必要なことは何だかわかりますか？

それは、まず家族や友人、周りの人たちにこの幸せを提供できる人になることです。簡単に言うと、まず、自分が人を大切にして、愛して、感謝するということです。この「4つの幸せ」を提供することは、非常に簡単で、自分の気持ちに素直になりさえすれば良いことであり、人に「幸せ」を提供することが、自分が「真の究極の幸せ」を手に入れる方法だと思います。

私はこの夏に還暦を迎えました。この夏季休業期間に、来年度以降の自分の身の振り方を考える中で、自分が教員を目指すようになった学生時代から、教員になってからのそれこそ40年、50年前からを振り返ったりしました。そんなとき「虹色チョーク」に久しぶりに出会ったことで、自分の今後の生き方、考え方に迷いがなくなり、明確になった様な気がします。

これからも、もっと皆さんに「究極の幸せ」を感じてもらえるように頑張っていきたいと思っています。